

【AIを活用した金融の高度化に関するワークショップ・第3回】

AIを活用した信用評価・レンディング

— 地域金融機関にとってのインプリケーション —

2019年2月18日

日本銀行金融機構局

金融高度化センター

菅野浩之

本資料は、ワークショップでの自由討論を行うにあたって、論点を提示することを意図したものです。
資料の中で示された内容や意見は、日本銀行の公式見解を示すものではありません。

1. AI活用に期待される効果

業務の効率化

+

融資(先)の拡大

- 融資/審査時間・マンパワーの削減
 - 余力の活用
(→ 渉外/収益部門の強化等)
 - コストの削減
- 中間(予兆)管理の向上
 - ← 直近決算以降の変化を把握

- 既融資先の深掘り
 - 非融資先の取り込み
 - ・ 預金者
 - ・ 非取引先(地元)
 - ・ 非取引先(域外)
- ← 顧客利便の向上(迅速審査等)
- ← 審査精度の向上
- ↓
- ← 低金利?(←審査・管理コストの削減)

顔の見えない
相手

2. AI活用の強みが活きる領域

- 多くの件数を、省人的かつ迅速に業務処理することが可能。



- ① 不特定多数(顔の見えない相手)
- ② 小口・短期(のリピーター)

(例)

- ⇒ 小規模・零細事業者向け貸付け
- ⇒ 消費者ローン
- ⇒ 住宅ローン

3. 業容に応じたAI活用のイメージ

(1) 大手行、大手地銀、ネット専門銀行等

- 全国(マス)向け・・・融資審査×予兆管理



攻勢?



競争激化?(異業種からの参入も?)

(2) 地域金融機関

- 融資先・・・予兆管理?

営業基盤の規模・構造にも依存

- 地元の非融資先

- 域外の非取引先

・・・融資審査×予兆管理?

信用金庫等には制約あり

⇒ 費用対効果の壁を超える?

⇒ リレバンによる対抗?

AIエンジンの低コスト化
(コモディティ化、共同化、
自前対応)が必要?

以上